

# 平成 25 年度事業報告

公益社団法人  
青年海外協力協会

平成 25 年度事業報告  
(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

## I 国際協力事業(公 1)

(趣旨)

国費によって派遣された、青年・シニアの海外ボランティア経験者を中心に構成される当会の組織特性と、開発途上国の草の根レベルでの国際協力実践活動を通して培った行動力や経験等をもって、開発途上国が抱える社会、経済、環境等の課題解決に寄与することを目的に、JICA 等の国内外の国際協力機関・団体等とも連携協力しつつ、次の通り、国際協力事業を実施する。

### 1. JICA ボランティア事業支援業務及び青年海外協力隊応募促進事業

(実施計画)

帰国隊員の経験を再活用し、JICA のボランティア事業にかかわる支援業務や海外の協力現場の業務調整員としてボランティア等の現地活動を支援し、正しい事業理解と更なる事業の発展に寄与する。

(1) JICA ボランティア募集説明会業務等 (JV: 青年海外協力隊 SV: シニア海外ボランティア)

JICA ボランティア事業の募集説明会を始めとする募集業務を、次の通り実施した。

#### 【長期ボランティア】

(春・秋の募集期の募集説明会業務及びボランティアセミナー業務)

- ① JICA 協力隊事務局管轄: 春 31 回 (JV31 回 SV26 回) 秋 32 回 (JV32 回 SV28 回)
- ② JICA 中部管轄: 春 13 回 (JV6 回 SV6 回 合同 7 回) 秋 14 回 (JV7 回 SV7 回 合同 7 回)
- ③ JICA 関西管轄: 春 20 回 (JV20 回 SV15 回) 秋 20 回 (JV20 回 SV15 回)
- ④ ボランティアセミナー 229 回: (協力隊事務局管轄 130 回、中部管轄 39 回、関西管轄 60 回)

#### 【短期ボランティア】

① 年 4 回の募集業務

- ✓ H24 年度第 4 回募集: 184 件 (内大学連携 11 件)
- ✓ H25 年度第 1 回募集: 152 件 (内大学連携 4 件)
- ✓ H25 年度第 2 回募集: 248 件 (内大学・企業連携 62 件)
- ✓ H25 年度第 3 回募集: 194 件 (内日系社会 19 件)
- ✓ 特別募集: 61 件 (大学連携 (東大他))

(2) JICA ボランティア選考業務 (JV: 青年海外協力隊 SV: シニア海外ボランティア)

JICA ボランティア事業の選考業務を、次の通り実施した。

#### 【長期ボランティア】

(春の選考業務)

- ① JV: 1 次受験者 (1461 名)・2 次受験者 (888 名)・合格者数 (586 名)
- ② SV: 1 次受験者 (188 名)・2 次受験者 (182 名)・合格者数 (96 名)

(秋の選考業務)

- ① JV:1次受験者(1625名)・2次受験者(960名)・合格者数(659名)
- ② SV:1次受験者(457名)・2次受験者(211名)・合格者数(118名)

【短期ボランティア】

- ① 年4回の選考業務(1次及び2次)

H24年度第4回選考: 応募者84名(内大学連携11名)・合格者48名(内大学連携10名)

H25年度第1回選考: 応募者88名(内大学連携3名)・合格者41名(内大学連携3名)

H25年度第2回選考: 応募者169名(内特別募集42名)・合格者82名(内大学/企業34名)

H25年度第3回募集: 応募者115名(内日系社会24名)・合格者48名(内日系社会8名)

特別募集: 応募者106名・合格者52名

(3) JICA ボランティア派遣前訓練・研修業務

JICA ボランティアの派遣前訓練・研修等を、次の通り実施した。

【長期ボランティア】

(技術補完研修等)

- ① 年4回の技術補完研修及び自動二輪車研修

- ✓ 技術補完研修

- ・技術補完研修対象者: H25/1(119名)、H25/2(127名)、H25/3(75名)、  
H25/4(146名)

- ・自己学習者: H25/1(31名)、H25/2(32名)、H25/3(24名)、H25/4(32名)

- ・資格取得指示: H25/1(45名)、H25/2(40名)、H25/3(14名)、H25/4(12名)

- ✓ 自動二輪車研修: H25/1(31名)、H25/2(31名)、H25/3(13名+活動中 JOCV1名)  
H25/4(14名)

(派遣前訓練)

- ① 駒ヶ根訓練所及び二本松訓練所における年4回の派遣前訓練

- \* H25年度から、JOCV70日、SV35日訓練。入所日は同じ。

- \* 「活動手法」コースとして、「目標管理」、「コミュニケーション手法」、「調査手法」単元が新設。

- \* 「野外訓練(1泊2日)」、「座禅(2コマ)」、「スポーツ大会(4コマ)」等復活。

- \* 「生活班活動」の中で、「生活班ゼミ」、「日本(人)研究」を実施。

- ✓ H25年度第1次隊訓練(駒ヶ根訓練所及び二本松訓練所): 4/10~(5/14)~6/18

- 駒ヶ根: 入所者206名(内 JOCV197名)+草の根案件コーディネーター1名

- 修了者205名(内 JOCV196名)+草の根案件コーディネーター1名

- 二本松: 入所者179名(内 JOCV174名)

- 修了者175名(内 JOCV170名)

- \* 5/10 協力団体(FASID、(株)エンパブリック)との「活動手法」コース評価会実施

- ✓ H25年度第2次隊訓練(駒ヶ根訓練所及び二本松訓練所): 7/10~(8/13)~9/17

- 駒ヶ根: 入所者135名(内 JOCV109名)+NGO3名

- 修了者132名(内 JOCV106名)+NGO3名

- 二本松: 入所者117名(内 JOCV108名)

- 修了者116名(内 JOCV107名)

\* 8/28 協力団体 (FASID、(株)エンパブリック) との「活動手法」コース評価会実施

✓ H25 年度第 3 次隊訓練 (駒ヶ根訓練所及び二本松訓練所) : 10/10~(11/13)~12/18

駒ヶ根: 入所者 113 名 (内 JOCV86 名)

修了者 112 名 (内、JOCV85 名)

二本松: 入所者 86 名 (内 JOCV78 名)

修了者 86 名 (内、JOCV78 名)

\* 12/3 協力団体 (FASID、(株)エンパブリック) との「活動手法」コース評価会実施

・H25 年度第 4 次隊訓練 (駒ヶ根訓練所及び二本松訓練所) : 1/7~(2/11)~3/14

駒ヶ根: 入所者 79 名 (内 JOCV67 名)

修了者 78 名 (内、JOCV66 名)

二本松: 入所者 99 名 (内 JOCV82 名)

修了者 97 名 (内、JOCV80 名)

\* 2/20 協力団体 (FASID、(株)エンパブリック) との「活動手法」コース評価会実施

(合同研修)

① 長期ボランティアのうち、JICA ボランティア経験者及び語学免除者を対象にした東京近郊の JICA 国内機関での年 4 回の合同研修 (短期ボランティアの研修も含む)

✓ H25 第 1 回合同研修: 5/27~6/1 (JICA 東京) 実施

SV 語学免除者 25 名 + 短期 (2 日間: 17 名、5 日間: 22 名、随伴者 8 名) 修了

✓ H25 第 2 回合同研修: 9/2~9/7 (JICA 東京) 実施

SV 語学免除者 13 名 + 短期 (3 日間: 11 名、5 日間: 14 名、随伴者 6 名) 修了

✓ H25 第 3 回合同研修: 11/25~11/30 (JICA 竹橋ビル) 実施

SV 語学免除者 24 名 + 短期 (3 日間: 32 名、5 日間: 34 名、随伴者 15 名)

✓ H25 第 4 回合同研修: 2/24~3/1 (JICA 横浜) 実施予定

SV 語学免除者 14 名 + 短期 (3 日間: 57 名、5 日間: 21 名、随伴者 8 名) 修了

\* 日系短期ボランティア 24 名含む

【短期ボランティア】

① 年 4 回の派遣前研修 (長期ボランティア (JICA ボランティア経験者及び語学免除者) との合同研修)

② 大学連携による短期ボランティアの派遣前研修

(4) JICA ボランティアの現地活動支援 (業務調整員)

現地に派遣された JICA ボランティアの現地活動を支援する為 (71 カ国 約 2,300 名)、企画調査員 (ボランティア) として現地活動を支援する。

① 派遣中: 94 名

(5) 青年海外協力隊応募促進事業

青年海外協力隊事業への応募者の拡大等に向けて、独自の応募促進支援事業等を、次の通り実施した。

- ① JOCA ボランティアセミナー
- ✓ 34 回実施
  - ✓ 単位対象有料講座採用決定(桐蔭横浜大学、成城大学、駒澤大学、日本外国語専門学校)  
備考:成城大学は、H26 年度の正規科目採用決定(科目名(開発支援論))
  - ✓ 3 社連携セミナー(応募者数 143 名(一般 23 名・法政大学 120 名))
- ② 協力隊ナビ
- ✓ 全都道府県実施計画確定数(40/47=450 回)  
(未実施=青森、埼玉、神奈川、愛媛、山口、鹿児島、沖縄)
- ③ 職種別応募相談
- ✓ 119 職種数 137 相談員数で、134 件に対応
- ④ JOCA ネットコミュニティ
- ✓ 登録者:帰国隊員:8,370 名、自治体:1,561 件
- ⑤ 青年海外協力隊講座
- ✓ 一般受講者数 : 313 名
  - ✓ JICA ボランティア合格者の利用者数 : 1,409 名
- ⑥ 帰国隊員市町村表敬・データ等調査
- (表敬件数・本部)
- 第 1 四半期(実施者数・26/44 名 実施対象自治体数・26/39)
- 第 2 四半期(実施者数・21/39 名 実施対象自治体数・17/30)
- 第 3 四半期(実施者数・27/51 名 実施対象自治体数・26/43)
- 第 4 四半期(実施者数・12/29 名 実施対象自治体数・12/28)
- (表敬件数・中部支部)
- 第 1 四半期(実施対象隊次 22/4.23/1 実施自治体数・16)
- 第 2 四半期(実施対象隊次 23/2 実施自治体数・19)
- 第 3 四半期(実施対象隊次 23/2 実施自治体数・11)
- 第 4 四半期(実施対象隊次 23/3 実施自治体数・4)
- (表敬件数・近畿支部)
- 第 1 四半期(実施者数・1/56 名 実施対象自治体数・1 ※試行実施)
- 第 2 四半期(実施者数・16/36 名 実施対象自治体数・12/26)
- 第 3 四半期(実施者数・0/45 名 実施対象自治体数・0/37 ※第 4 四半期に延期)
- 第 4 四半期(実施者数・27/44 名 実施対象自治体数・20/31)
- ⑦ 協力隊まつり
- ✓ 4 月 20 日、21 日、参加 28 団体により東京駅日本橋口において開催。
- ⑧ 応募促進等の強化事業

## 2. 国際理解教育関連支援事業

(実施計画)

「国際理解教育・開発教育」の実践を、協力隊活動の経験を基にしながら、具体的なイメージを実感できるよう当会の独自性を踏まえて工夫した「地球生活体験学習」プログラムとして推進し、帰国隊員や他団体と協力しながら、世界平和に貢献する人材育成に寄与する。

### (1)地球生活体験学習推進

地球生活体験学習を推進するため、次の通り実施。

#### ① プログラム実践者養成

帰国隊員向け、体験談の伝え方講座を実施。

#### ② プログラム・教材開発

東京都教育庁との連携で、キャリア教育で活用できる青年海外協力隊の経験を活用した教材を開発。モデル校 9 校で実施。

✓ 都立小岩高等学校 ・都立武蔵高等学校附属中学校 ・都立総合工科高等学校

✓ 都立戸山高等学校 ・都立府中高等学校 ・都立田柄高等学校 ・都立大田桜台高等学校

✓ 都立東久留米総合高等学校 ・都立小平西高等学校

また、広島県立福山少年自然の家の主催事業に対し、「地球こどもアドベンチャー」と題した野外での小学生向けグローバル人材育成プログラムを開発、提供。

③ 講師派遣:21 件、受講者数 1,228 名

④ 教材貸出し・販売:教材販売 25 件、ワールドボックス貸出 34 件/78BOX。

### (2)JICA 開発教育支援業務

JICA が実施する次の開発教育関連事業の支援業務を運営。

① JICA 札幌開発教育支援/地域交流事業(出前講座・施設訪問、教師海外研修、図書資料室管理)

② 国際協力レポーター2013 運営事務局業務

③ JICA 関西開発教育支援事業(出前講座・施設訪問)

④ JICA 沖縄開発教育支援事業(出前講座・施設訪問)

### (3)人材育成事業

青年海外協力隊の経験を活かし、青少年等を始めとする人材を対象とした、次代を担う人材育成に資するプログラムの企画・運営等を実施。

① 青少年開発途上地域生活体験プログラムに関する調査

② おきなわ国際協力人材育成事業(沖縄県委託)

③ 沖縄グローバル人材育成事業(JICA 沖縄委託)

④ 大阪市此花区連携事業・此花中学校グローバル講座

此花区役所、此花中学校、JOCA 近畿支部との連携による国際理解教育授業を実施。

(計 5 回)

### 3. 研修生等受け入れ支援業務

(実施計画)

各都道府県のOB会等と協力しながら、研修生・留学生の交流プログラム及び語学研修等に積極的に支援・協力をを行う。また、帰国隊員及び当会会員等の協力を得ながら、専門分野での受け入れプログラムにも支援・協力する。

#### (1) JICA 青年研修支援業務

JICA が実施する青年研修事業の受け入れを実施。

- ✓ JICA 北陸(ベトナム、職業訓練教育、17 人)
- ✓ JICA 北陸(タイ、中小企業振興、15 人)
- ✓ JICA 中部(イラク、中小企業振興、10 人)
- ✓ JICA 中部(トルコ/経済行政、14 名)
- ✓ JICA 中部(ヨルダン、中小企業振興、10 人)
- ✓ JICA 中国(ミャンマー、情報通信技術政策、17 人)
- ✓ JICA 四国(フィリピン、経済行政、17 人)
- ✓ JICA 沖縄(大洋州混成、地域における観光振興、8 人)
- ✓ JICA 沖縄(ベトナム、地域における中小企業振興、17 人)

#### (2) JENESYS<sup>2.0</sup> 業務

外務省が実施するJENESYS<sup>2.0</sup>の実施支援。

- ①大洋州からの短期招へい(南太平洋大学委託)  
368 名(18 コース)を受入。
- ②ASEAN ほか諸国からの短期招へい(ASEAN 事務局委託)  
25 名(1 コース) ※のこり 1,718 名を平成 26 年度中に受入。

#### (3) ウチナージュニアスタディツアー業務(沖縄県委託)

沖縄県が実施する沖縄県系日系人の県内招へい事業を運営(海外、国内を含め 34 名の受入)。

#### (4) UNDP スタディツアー(UNDP チュニジア委託)

UNDP が実施する次の日本招へい事業を運営。

チュニジア/治安関係者 9 名

#### (5) 静岡県海外技術研修員事務業務(静岡県委託)

静岡県が実施する海外技術研修員受け入れ事業を運営。

ラオス研修員(JOCV C/P) 環境分野 1 名

### 4. 地球ひろば運営支援業務

(実施計画)

国際協力にかかわる市民団体の情報発信、交流、研修の拠点として、開発途上国の人々への共感・連帯感をはぐくむことを目的に運営されている JICA 地球ひろばにおいて、協力隊活動の経験を基にしながら、帰国隊員や他団体と協力し、市民が体験的に開発途上国の現状や国際協力について理

解を深めるプログラムを提供する。

(1)地球ひろば

JICA 地球ひろば運営支援業務を実施。

(2)地球ひろば(なごや)

JICA 中部センターが実施するなごや地球ひろば運営支援業務を実施。

## 5. 中学生・高校生エッセイコンテスト等支援業務

(実施計画)

中学生・高校生エッセイコンテストは、1998年より、当会が各都道府県OBと連携して実施し、毎年、応募者を増やしてきた事業である。こうしたエッセイコンテストでの業務経験を活かして、同コンテストを始めとした、国際協力関係の各種コンクール等の実施支援を行う。

(1) JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト 2013

応募作品 計 73,253 作品 (中学生:44,289 高校生:28,964)。

青年海外協力隊 OB 会会長賞 154 名を表彰 (中学生の部 75 名 高校生の部 79 名)。

## 6. 国際緊急援助隊支援業務

(実施計画)

海外での大災害に対する国際緊急援助は、消防、警察、医師・看護師等、関係する各機関の相互連携とその分野における能力を最大限発揮するため、平時の訓練研修が極めて重要であることから、実際の派遣経験等を基にその支援活動を行う。

(1)国際緊急援助隊事務局支援業務

① 訓練・各研修に係る業務

- ✓ 4月:救助チーム 指揮本部計画運用研修(JICA 東京)、医療チーム リーダーズコース研修(JICA 東京)
- ✓ 5月:救助チーム メンテナンス会(成田)
- ✓ 6月:救助チーム 構造評価 FU 研修
- ✓ 7月:救助チーム 技術訓練(立川)、医療チーム 中級研修(JICA 関西)
- ✓ 8月:医療チーム 機材展開訓練(JICA 東京)、救助チーム メンテナンス会(成田)
- ✓ 10月:救助チーム 指揮本部計画運用研修(JICA 東京)  
救助チーム メンテナンス会(成田)
- ✓ 11月:救助チーム・医療チーム 総合訓練(兵庫) ← JDR 派遣のため中止、  
医療チーム中級研修
- ✓ 12月:救助チーム メンテナンス会(成田)、医療チーム 導入研修(JICA 関西)
- ✓ 2月:医療チーム 中級研修(JICA 市ヶ谷)
- ✓ 3月:救助チーム メンテナンス会(成田)

② 委員会等に係る業務

- ✓ 5月:救助チーム 医療班ミーティング(JICA 東京)
- ✓ 6月:救助チーム 課題検討会「機能拡充」(JICA 市ヶ谷)
- ✓ 8月:医療チーム 課題検討会「機能拡充」、救助チーム 技術検討会(JICA 市ヶ谷)
- ✓ 9月:医療チーム 総合調整部会
- ✓ 10月:医療チーム 課題検討会「機能拡充」(JICA 市ヶ谷)



<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 1月: 医療チーム 課題検討会「機能拡充」(JICA 市ヶ谷)</li> <li>✓ 救助チーム 技術検討会(JICA 市ヶ谷)</li> <li>✓ 2月: 医療チーム 研修実施検討会(JICA 市ヶ谷)</li> <li>✓ 3月: 医療チーム 電子カルテ検討会</li> </ul> <p>③ 国際緊急援助隊員候補者登録維持等に係る業務</p> <p>④ 国際緊急援助隊携行資機材の管理に係る業務</p> <p>⑤ 国際緊急援助隊派遣に係る業務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ フィリピンへの医療チーム派遣 第1次隊: 11月11日～24日 第2次隊: 11月20日～12月3日 第3次隊: 11月29日～12月12日</li> <li>✓ マレーシア機行方不明業務調整員派遣 1名: 3月28日～4月6日 1名 (4月以降: 2名派遣予定)</li> </ul> <p>⑥ 業務実績資料等の作成業務</p> <p>⑦ その他:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 6月 JOCA 職員対象JDR業務調整員研修実施</li> <li>✓ 10月 JICA 職員対象業務調整員研修</li> <li>✓ 11月 医療チーム業務調整員派遣 第1次隊: 2名、第2次隊: 2名、第3次隊: 1名</li> <li>✓ 12月 JOCA 所属業務調整員報告会(JOCA 本部)第1次隊および第2次隊</li> <li>1月 JOCA 所属業務調整員報告会(JOCA 本部)第3次隊</li> </ul>
---

**7. 国際協力プロジェクト事業**

(実施計画)

当会が、開発途上国において実施している国際協力プロジェクトは、青年海外協力隊としての活動経験から得られた、その国の開発には、その国の草の根の人々自らが積極的に取り組むという、自助努力を最大限促すことのできる独自の援助アプローチを展開した協力活動を行う。また、二国間或いは多国間等の開発支援協力においては、その当該地域との真の相互理解促進が欠かせないことから、アフリカ地域等への理解促進に資する活動も展開する。

<p>(1) JOCA—ラオス青年同盟学校クリーンアッププロジェクト</p> <p>ラオスにおける青少年の環境への興味と学校校内の美化運動促進を目指して 2010 年 10 月から事業を展開し、2013 年は 3 年計画で開始された 3 年目となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① ヴィエンチャン特別市中・高一貫教育の 44 校および高校 2 校の計 46 校におけるゴミ箱設置、廃棄物ストックヤード整備などの環境整備、環境教育ワークショップ開催(15 回)、ゴミ処理施設等へのスタディツアー(2 回)の実施。計画の通りプロジェクトが実施された。</li> <li>② ラオス青年同盟とのプロジェクト評価および、学校での環境教育事業(緑化と廃棄物対策)を実施するヴィエンチャン特別市環境局に事業を引き継ぐ協議のため、来年度 6 月までのプロジェクトの延長が決定した。</li> </ul>
<p>(2) アフリカ開発支援プロジェクト(新)</p> <p>平成 25 年度は我が国のイニシアティブによる第 5 回アフリカ開発会議が開催される等、アフリカへの我が国各機関からの開発協力や支援の強化が期待されることである。このような背景の下、特に青年海外協力隊派遣国を中心にしたアフリカ諸国に対し、当該各駐日大使館等と連携を図り、我が国が</p>

らのアフリカ支援への協力効果が一層高められるようなプロジェクト形成を進める。

- ① マラウイ農民自立強化・生計向上プロジェクトを外務省の日本 NGO 連携無償資金協力を受けて 3 月 7 日から開始。
- ② 前事業で育成した優良農家を中心に、新たな換金作物の作付けや経営の多角化を指導し、商業的な農業を実践する農家を育てて援助からの卒業を促す。
- ③ 外務省 NGO 連携無償案件として 3 月の承認を得て、3 年で 1 億 5 千万円の支援を獲得した。
- ④ 平成 26 年 3 月、新マラウイ事務所長として辻本氏が着任し本格的に稼働し始めた。

## 8. 海外ボランティア招聘事業

(実施計画)

国際ボランティア活動は、異文化交流・体験を通じた相手国の理解や、自国について、改めて再考する等の教育的側面も有している。そうした経験を多数持つ当会は、今後の国際ボランティア活動を、我が国と相手国との双方向的な事業へ発展させるため、国際機関等との連携により、海外から我が国へのボランティア活動希望者を招聘し、グローバル時代に相応しい、真の相互理解を促進させる活動を行うものである。

### (1) 海外ボランティア招聘にかかる国際機関等との連携・調整

- ① ボランティア事業を実施している国際機関等の調査、及び情報交換
- ② アフリカ連合(AU)ボランティア構想との連携
  - ✓ TICAD V 報告会に向けた連携
  - ✓ 10 月 1-4 日:AUYVC 本部にて来年度計画の協議実施。

### (2) 海外ボランティア招聘事業

- ① 国際機関等との連携によるボランティア招聘
- ② アフリカ連合(AU)ボランティア構想との連携によるボランティア招聘
  - ✓ 3 月 17 日:AU ボランティア 7 名、AU 職員 1 名、来日済み
  - ✓ 3 月 28 日～:現地活動実施中。(遠野 4 名、釜石 3 名、CDN3 名。)
  - ✓ 4 月 15 日:岩手県知事表敬
  - ✓ 5 月 1 日:中間報告会 in 仙台 実施。
  - ✓ 5 月 31 日:TICAD V サイドイベントにおいて活動報告会実施。
  - ✓ 6 月 12 日:AUV 帰国
  - ✓ 9 月 21 日、22 日:AU ボランティア 7 名来日(第 2 陣)
  - ✓ 9 月 26 日:遠野へ移動
  - ✓ 10 月 11 日～:配属先での活動開始
  - ✓ 11 月 6.7 日:JICA 二本松訓練所にて中間報告会実施。
  - ✓ 12 月 7 日:HSP シンポジウムにおいて最終報告 in 東大。
  - ✓ 12 月 11 日:帰国。

- ③ 第 5 回アフリカ開発会議(2013 年)支援事業計画

- ✓ JICA TICAD V 広報ユニット業務
  - ・羽田空港第2ターミナル展望開設記念イベントでの展示、アフリカンフェスタでの展示等の実施
  - ・TICAD V 開催前後の JICA アフリカ部への支援
  - ・8月16日から1月17日まで、HPおよびSNS事業の延長と実施
- ✓ その他
  - ・各県協力協会・OB 会との連携による「アフリカの日 全国統一学校訪問プロジェクト」の実施

## 9. NGO 等支援業務

(実施計画)

実務を通じて、若手国際協力人材の育成を目的にインターンを受入れている我が国国際協力 NGO に対し、外務省が、そのインターン受入にかかる経費的支援を行う事業で、当会は、その運営事務局を受託実施する他、国際協力関連 NGO 等との連携・協力を図り、開発課題等の解決へ貢献する。

### (1) NGO インターン・プログラム運営事務局業務

- ① 6月、新規10団体が承認され、継続の9団体と合わせて19団体に支援を開始。
- ② 6～8月に各団体を訪問し、当プログラムの進捗確認や問題点を把握。また、毎月、各団体の現状をHPに掲載し広報の一環とした。
- ③ 3月、継続4団体を含め、活動報告会を実施するとともに、団体同士の情報交換の場とした。

### (2) 国連経済社会理事会(国連 NGO)との連携

国連経済社会理事会における協議資格取得にかかる調査を実施し、来年度6月の申請書類提出に向けて準備を行った。

### (3) JICA 草の根技術協力支援業務(平成25年11月～平成28年10月)

- ① JICA 地球ひろば： 草の根技術協力(平成24年度地域経済活性化特別枠)の JICA 地球ひろば管轄(1都6県)の受託(平成25年11月～平成28年10月)
- ② JICA 東北： 草の根技術協力(平成24年度地域経済活性化特別枠)の JICA 東北管轄業務支援の受託(平成26年3月～平成29年3月)

### (4) NGO 研究会業務

- ① 「国際協力活動における地方の NGO の能力強化」をテーマに調査研究を行うもの。
- ② 全国の NPO/NGO 1,000 団体へのアンケート調査、名古屋および福岡でのシンポジウムを実施し、3月に調査研究の報告書およびパンフレットを提出した。

## 10. 国際協力事業にかかる広報事業

(実施計画)

各都道府県 OB 会及び当会会員のみならず、広く自治体、大学、NGO・NPO 関係機関等に対し、当会の趣旨と活動を積極的に広報・啓発するための機関誌・情報誌を発行する。また、当会ホームページを充実し、国際理解・協力の推進を図ることを目的とした情報提供を行うとともに、JICA 広報誌や各

関係団体の広報誌に、当会の活動のみならず、今まで集積した開発途上国情報の提供や人材の推薦等を行う。

(1)「スプリングボード」発行

当会の機関紙として月1回の発行を実施。

- ✓ NO.132～NO.140まで発行。

(2) JOCA ホームページ及び JOCA ネットコミュニティの運営

当会の動きを的確に広報・周知するため適宜更新を行うとともに、公開情報について正確な情報提供が実施できるよう管理する。

① ホームページの情報更新はほぼ毎日実施。

② JOCA ネットコミュニティ

ネットを利用した双方向の情報交換の場として、2009年より開始。また、当会25周年に実施した全国キャラバン隊で訪問した市町村との情報交換としても活用し、全国市町村の約90%が登録している。

- ・ 帰国登録数:8,370、自治体登録数:1,561(3月末日実績)。

- ・ 毎月1日および15日に定期通信を実施。

- ・ 特に帰国隊員への情報提供では就職につながる情報に関心があり、積極的に広報している。

(3) JOCA 設立 30 周年及び JOCV 事業創設 50 周年関連事業

2013年の JOCA 設立 30 周年及び 2015 年の青年海外協力隊事業創設 50 周年に向けて、広く青年海外協力隊事業の趣旨等を広報啓発する為、平成 25 年度はその具体的事業への着手を行う。

① 映画製作関連

- ✓ エピソードコンテスト実施(審査対象応募総数:1,001点 優秀作品は19点)

- ✓ シナリオコンテスト((審査対象応募総数:76点 入賞5点 大賞1点)

## II 国内協力事業(公2)

(趣旨)

青年海外協力隊事業への参加結果から得られた知識・経験を活かし、我が国社会の課題解決等のため、全国の帰国隊員や関係団体等と連携協力して、次の通り、国内での社会貢献事業を実施する。

### 1. 地方自治体との連携事業等

(実施計画)

日本国内においては、グローバル化が進展するに伴い、地域の国際化や多文化共生といった様々な課題への対応が地域社会へも必然的に求められている。こうした課題への対応に資するため、青年海外協力隊の活動経験や各種の受託業務から得られたノウハウ等を活かし、地方自治体と連携して、地域社会の活性化や健全な発展を目指した事業を展開するとともに、関連する施設にかかる指定管理者業務を受託実施する。

#### (1) 地方自治体との連携事業

##### 【指定管理者事業】

##### ① 鹿児島県アジア太平洋農業研修センター(開始:2007年 2013年:第3フェーズ3年目)

○ 平成25年度(4月～3月累計):見学者数 4,854人 研修者数 9,413人  
(平成24年度 :見学者数 4,569人 研修者数 10,761人)

##### ② 浦安市国際センター(開始:2007年 2013年:第3フェーズ2年目)

○ 平成25年度(4月～3月累計):来館者数 38,636人  
(平成24年度 :来館者数 32,977人)

##### ③ 神奈川県立地球市民かながわプラザ(開始:2011年 2013年:第1フェーズ3年目)

○ 平成25年度(4月～3月累計):来館者数 386,731人  
(平成24年度 :来館者数 362,223人)

##### 【委託事業】

##### ④ 神奈川県国際研修センター(開始:2010年 2013年:受託4回目)

○ 54室中 26室入居中(留学生 25名、研修員 1名) 3月末実績

### 2. 災害復興支援事業及び地域社会の活性化を目指した国内協力隊事業

(実施計画)

阪神淡路大震災や新潟県中越沖地震の復旧・復興支援の経験と、国際緊急援助隊支援業務での海外緊急支援活動で蓄積された経験を基に、全国の帰国隊員とのネットワークを活用して、東日本大震災の被災地にかかる災害復興支援事業を実施するとともに、これらの国内での協力活動を更に推し進め、少子高齢化等により衰退する地域社会の活性化を目的とした、「ふるさと新生」を旗印とする国内協力隊へと発展させ、継続的な国内協力事業を展開する。

#### (1) 災害復興支援事業(東日本大震災復旧・復興支援プロジェクト)

災害復興支援事業を、次の通り実施。

① 地域社会再生支援のための自治体等との連携・体制作りの強化

- ✓ 復興庁連携として調整員(CDN)を配置。
- ✓ 福島復興局 2 名。宮城復興局 2 名。岩手復興局 2 名(うち 1 名は釜石支所)。
- ✓ 被災自治体との連携強化(岩沼市、名取市、釜石市、遠野市等)
- ✓ 三重県鈴鹿市と「震災時支援協定」を締結。(4/1)訓練実施(2/17)
- ✓ 神奈川県森林づくり定着型ボランティア事業で森林整備を実施(5 回)。

② 国内協力隊を中心とした課題別チーム派遣によるプロジェクト形式の支援

- ✓ 被災自治体の課題に対する支援

(暮らしの安全とコミュニティー復興支援): 岩沼 SC

【活動】里の杜 SC 運営支援を通じた、仮設住宅入居者の孤独死・孤立の防止。住民、自治会、関連団体と連携した地域コミュニティー活性化の全体調整、実施。自治体支援を通じたニーズ調査、市民への相談対応等

【投入】計 4 名(岩沼 SC:調整員 1 名、看護師 1 名、保健師 1 名、介護福祉士 1 名)

(地域コミュニティー復興支援事業(その 2)): 岩沼市生活支援室

【活動】みなし仮設住宅入居者の支援。自治体支援を通じたニーズ調査、市民への相談対応等。

【投入】計 4 名(岩沼 SC 看護師 1 名、保健師 1 名、自治体支援員 2 名)

(岩手県教育委員会「学びを通じた被災地の地域コミュニティー再生事業」): 釜石市教委

【活動】「S☆Cram School」。放課後の学習支援(中学、高校)。社会学習支援

【投入】計 4 名(社会学習コーディネーター 2 名、学習支援員 2 名)

(名取市「民賃世帯コミュニティー再生事業」)

【活動】・サロン拠点を中心とした民賃世帯の被災者支援。

【投入】計 15 名(CDN5 名、支援員 14 名) \* 12 月よりサロンを 6 箇所運営。

- ✓ 復興庁連携プログラム

【活動】・復興庁と連携したニーズ調査と企画立案、協力隊経験者の被災自治体への派遣。

【投入】宮城復興局 CDN2 名、岩手復興局 CDN2 名、福島復興局 CDN2 名を配置。

【派遣者数】80 名。(3/31 時点。CDN6 名。宮城 25 名。岩手 34 名。福島 15 名。)

- ✓ 災害救援専門ボランティア、国内協力隊等、震災支援活動実績

【活動人日】: 40,762 人・日【派遣人数】: 529 人【派遣中】: 36 人(3 月 31 日現在)

【災害救援専門ボランティア】: 登録数: 2693 名(3 月 31 日現在)

③ 支援活動を通じて得た経験・情報等の整理、及び、今後への活用検討

(2) 国内協力隊事業(地域社会活性化プロジェクト等)

ふるさと新生モデル事業を、岩手県遠野市において、次の通り実施する。

① 遊休農地等耕作放棄地化しつつある農地を活用した「玄米粉」の生産

- ✓ 新規農地賃貸借契約の実施。(計: 2.5ha)

② 「玄米粉」を活用した食糧援助プログラムの実施

- ✓ 第 2 回収穫祭実施。(9/28。11120kg 収穫。)

- ✓ マラウイ国ムジンバ県カゾンバ小学校(生徒数 754 名。教員 16 名。)で決定。
  - ✓ 7 月 17 日:玄米粉輸送(日本出港)。(10/8:プロジェクトサイト到着。)
  - ✓ 10 月 8 日:学校給食プロジェクト開始セレモニー。
  - ✓ 10 月 9 日:身体測定実施。
  - ✓ 10 月 10 日:学校給食開始。
  - ✓ 1 月 7 日:JICA 短期隊員赴任。(栄養士)
- ③ 農地を活用した「地域活性化プログラム」の企画・実施
- ✓ 5 月 25 日「田植えイベント」実施。
  - ✓ 上郷中学校廃校活用計画の検討。
  - ✓ 7 月:上郷中学校温泉掘削事前調査の実施。
  - ✓ 9 月 28 日:稲刈りイベント実施。
- ④ 国内外の地域社会活性化を図ることの出来る人材の育成
- ✓ 金井国内協力隊員が JOCV に合格。(H25 年度 3 次隊・セネガル・野菜栽培)
  - ✓ 就農希望者の継続配置
  - ✓ 協力隊経験者による地域活性化に関する WS の実施

### 3. 全国の青年海外協力隊 OB 会等を始めとする諸団体との連携事業

(実施計画)

帰国隊員が 3 万 8 千 5 百名を超える今日、各都道府県 OB 会や関係諸団体と連携し、各地域における国際化支援、地域活性化支援等の社会貢献活動を共同展開する。また、こうした地域の国際化や多文化共生、国際理解教育等への各種の支援活動を図りながら、更に具体的且つ効果的な社会貢献活動へと繋げるため、帰国隊員の国内における組織活動の強化とブロック単位での面的活動が推進できるように共同事業を運営する。

(1)OB 会共同事業

① 共同事業申請・実施:計 56 団体

共同事業実施団体		
青年海外協力隊北海道 OB 会	JICA ボランティア岐阜県 OV 会	佐賀県青年海外協力協会
青森県青年海外協力協会	青年海外協力隊愛知県 OB 会	長崎県青年海外協力協会
岩手県青年海外協力協会	青年海外協力隊三重県 OB 会	大分県青年海外協力協会
宮城青年海外協力協会	滋賀県青年海外協力協会	熊本県青年海外協力協会
青年海外協力隊秋田県 OB 会	NPO 法人京都海外協力協会	宮崎県海外協力協会
NPO 法人山形県青年海外協力協会	奈良県青年海外協力協会	沖縄県青年海外協力協会
ふくしま青年海外協力隊の会	和歌山青年海外協力協会	日本マラウイ協会
新潟県青年海外協力協会	青年海外協力隊大阪府 OB・OG 会	青年海外協力隊ネパール会
青年海外協力隊東京 OB 会	青年海外協力隊兵庫県 OB 会	ワスワヒリの会
栃木県青年海外協力隊 OB 会	青年海外協力隊鳥取県 OV 会	バングラデシュ OV の会

青年海外協力隊茨城県 OV 会	青年海外協力隊岡山県 OV 会	青年海外協力隊サモアOB 会
青年海外協力隊群馬県 OB 会	島根県青年海外協力協会	JOCV・ソロモンOV会
青年海外協力隊埼玉県 OB 会	青年海外協力隊広島県 OB 会	JOCV 幼児教育ネットワーク
青年海外協力隊千葉 OB 会	青年海外協力隊山口県 OB 会	ヨルダンネットワーク
青年海外協力隊神奈川県 OB 会	香川県青年海外協力協会	青年海外協力隊栄養士ネットワーク
山梨青年海外協力隊協会	徳島県青年海外協力協会	ルーマニア OB 会
青年海外協力隊静岡県 OB 会	愛媛県青年海外協力協会	ベトナム OV 会
青年海外協力隊長野県 OB 会	高知県青年海外協力隊 OB 会	青年海外協力隊マレーシア会
石川県青年海外協力隊 OB 会	福岡県青年海外協力協会	

#### 4. 国内協力事業にかかる広報事業

(実施計画)

国内協力事業にかかわる関係者、全国地方自治体エリアサポーター、大学、企業等に対し、当会の国内協力活動を積極的に広報・啓発するための「協力隊かわら版」を発行する。合わせて、ホームページを充実し、国内協力活動の推進を図り、「ふるさと新生」を旗印とする国内協力隊事業の発展を目的とした情報提供を行う。

##### (1)「協力隊かわら版」送付

青年海外協力隊の帰国隊員を中心にエリアサポーターである自治体や関係者などに、広く協力隊事業や当会事業を理解いただくため、約 22,000 通を毎月送付。

✓ NO.31～NO.39 まで発行。

##### (2)JOCA ホームページ及び JOCA ネットコミュニティの運営

当会の動きを的確に広報・周知するため適宜更新を行うとともに、公開情報について正確な情報提供が実施できるよう管理する。

① ホームページの情報更新はほぼ毎日実施。

② JOCA ネットコミュニティ

ネットを利用した双方向の情報交換の場として、2009 年より開始。また、当会 25 周年に実施した全国キャラバン隊で訪問した市町村との情報交換としても活用し、全国市町村の約 90% が登録している。

- ・ 帰国登録数:8,370、自治体登録数:1,561(3 月末日実績)。

- ・ 毎月 1 日および 15 日に定期通信を実施。

- ・ 特にエリアサポーターである自治体からは、地域おこし協力隊の募集記事依頼が毎回あり、多くの帰国隊員が応募している。

##### (3)JOCA 設立 30 周年及び JOCV 事業創設 50 周年関連事業

2013 年の JOCA 設立 30 周年及び 2015 年の青年海外協力隊事業創設 50 周年に向けて、広く青年海外協力隊事業の趣旨等を広報啓発する為、平成 25 年度はその具体的事業への着手を行う。

① 映画製作関連



- ✓ エピソードコンテスト実施(審査対象応募総数:1,001点 優秀作品は19点)
- ✓ シナリオコンテスト(審査対象応募総数:76点 入賞5点 大賞1点)

### Ⅲ 会員事業(他 1)

(実施計画)

会員の確保に資するとともに、青年海外協力隊事業の意義についての理解の促進と同事業の更なる発展に貢献することを目的として、青年海外協力隊派遣国等の在京大使や国際協力関係者等多数の参加を得て行われる、新春交歓会等の開催を行う。また、青年海外協力隊員の相互扶助事業として、派遣中に志半ばで亡くなった隊員のために、帰国隊員の寄付により建立した慰霊碑の維持管理及び派遣中の隊員並びに帰国後に亡くなった帰国隊員への弔電発出等を行う。

#### (1) 新春交歓会の開催

平成 26 年 1 月 25 日に国立オリンピック記念青少年総合センター内にて実施。

出席者：国会議員関係 5 名含む関係者来賓 63 名、在京大使館関係 43 名(27 大使館)、青年海外協力隊帰国隊員 377 名、合計 483 名

#### (2) 慰霊碑の管理等(通年)

- ① 毎週 1 回、慰霊碑への供花を実施。
- ② 定期的に清掃を実施。

(会員情報)

会員種別	正会員	増減	賛助会員	増減
個人会員	426	-4	235	±0
団体会員	63	+2	5	±0
法人会員	9	±0	12	±0
合計	498	-2	252	±0

※増減値は昨年度末現在比